

轍わだち

2011. 12. 10 NO27

明日は日曜日なので1日早い発行です

まだ9ヶ月しかたっていないのです。あの日から…。復興が進む一方で、「あの日あの時、こうしておけば良かった」と悔い、我が身を責める人々が被災地には大勢いると聞きます。そのような方々へも届く支援とは？何かについても考えながら、被災地を忘れないために「轍・27号」をお届けします。

ありがとうございます。体も。心も温まります。

私たちが11月に送った暖房器具を、被災者のお宅を一軒一軒訪ね、その方に必要な暖房器具を配っていた卒業生の吉村さんからは長いお手紙と、地元新聞社が発刊した写真集や最近の新聞などを送って頂いています。また、受け取ってくださった方々からはお礼状が届いています。

どのお礼状にも「ありがとう」のことがばが連なって綴られています。ここでは、その一部を紹介し、全てのお礼状については室町玄関に掲示します。

「私は家が流されました。今は部屋を借りています。感謝・感謝本当に感謝の気持ちでいっぱいです。」

「暖房器具最高です。心よりお礼申しあげます。暖房器具・キャンドル、大切にに使わせて頂きます。」

「着の身着のまま何一つ持たずに逃げました。寒さが厳しくなり、大変ありがたく喜んでいきます。」

「何もかも流されて…生まれただけの孫のために本当にほしかったものが頂けて本当に嬉しい。」

「石油ストーブだけでなく、ホースやポリタンクまでつけて頂いているのですぐに使え感謝です。」

「一家でコタツに入り、団らんでできる幸せをしみじみと感じています。コタツ布団までありがとう。」

「ストーブは買ったのですが、こたつまでは我慢し頑張っていました。今日からこたつ嬉しいです。」

冬用支援物資追加分送ります

石油ストーブ&タンク・ホース10

ホットカーペット&カバー6 パネルヒーター 5

ダウンジャケット 5 マフラー 50 トースター 2 ミシン 1

今回はバンダナの売上金以外に、保護者会から10万円の寄付金、ボランティア・スピリット賞の懸賞金2万円などを役立たせて頂きました。

支援物資を送るためには義捐金を集めなくてはなりません。そこで実行委員会としては、賞金や、製品が当たる応募にチャレンジしちゃってます。😊
運良く、この度、アメリカの金融機関プルデンシャル・ファイナンシャル及び系列会社（ジブラルタル生命保険など）が青年のボランティアを支援するために立ち上げた「ボランティアスピリット賞」に応募したところ「関西ブロック・コミュニケーション賞」に選ばれ、賞金2万円を頂きました。
「震災支援に関する応募が多かった中で、私たちの活動が評価されたことは大変喜ばしく、誇りに思います。」委員長・西紋
ストーブが当たる！という懸賞にも、応募をお願いしました。多くの方々が応募頂いたようですが…これは今もって、朗報が届いていません。
これからも色々と支援のために頑張りますからご協力下さい！

支援物資の暖房器具と一緒に、 お一人お一人にお渡ししているお手紙です

<実物のお手紙の写真はカラーです。>

被災されたあなた様へ

東北はもうずいぶん寒くなっていることでしょうね。京都は例年より少し暖かいため、紅葉が遅れています。

さて、私たちは、京都の御所の隣に位置するところにある平安女学院中学校高等学校の生徒たちです。

私たちはこのたびの震災・津波・原発事故による被害に心痛めています。「私たちに出来ることを考え、行動しよう」と決意し、震災後の四月十一日に「東日本被災地応援実行委員会」を結成しました。実行委員会のメンバーは全校生の一割程度ですが、現在まで自分たちが考えられることを企画しながら、被災地へ息の長い支援活動と呼びかけてきています。

そのため、生徒・先生方はもちろんですが、保護者の皆さんや卒業生の方々、また京都の他校の生徒や、教職員の皆さんにもご協力をいただきながら支援物資を購入するための活動をすすめています。

私たちは、単に義捐金を集めるのではなく、オリジナルタオルや、バンダナなどを購入して頂き、それを手元に置いて頂くことで「震災を忘れず、応援の気持ちを持続できる」取り組みを大切にしています。

今回は、少し遅くなりましたが暖房器具を送らせて頂きます。同時に生徒たちが作ったキャンドルを一緒にお届けいたします。

これからご苦労が多いことと思いますが、お体を大切にお過ごし下さい。また、今後も、何か必要なものがあればお知らせ頂ければ幸いです。

京都市上京区下立売丸西入五町目町一七二の二

平安女学院中学校高等学校東日本被災地応援実行委員会

二〇一一年十一月四日

